

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位 (時間)	科目責任者
解剖生理学 I	1 年次	必修	講義	1 単位 (30時間)	竹内 法子
授 業 概 要					
<p>人体の基本的な構造および生体の機能と仕組み、身体内外に起こる諸現象とその要因など、いわゆる生命現象を知る科目である。各器官系別に、緻密で精妙な生体の構造形態と機能の基本的な特性、また、病態との関連性についても、マクロ・ミクロの両面からアプローチし、恒常性の維持に関する内容も含めて解説する。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の構成や個体の発生について、理解し説明できる。 ・ 体液と血液について、その組成や性状について理解し説明できる。 ・ 体温調節など恒常性の維持について理解し説明できる。 ・ 内分泌系の構造と形態および機能、ホルモンとその調節について、その特徴を理解し説明できる。 ・ 生殖器系の構造と形態および機能について、その特徴を理解し説明できる。 					
実務経験のある教員					
回	学 習 内 容				担当教員
1	身体の構成：体形の概要(身体の区分、体内の腔所、身体の断面と方向)				竹内 法子
2	：人体の構成単位－組織(上皮組織の機能的分類と形態的分類および分布)				
3	：人体の構成単位－組織(支持組織、筋組織、神経組織)				
4	：人体の構成単位－細胞(細胞膜、細胞質、細胞小器官、細胞間の結合、細胞内外の物質移動)				
5	体液と血液：体液－組成、体液量と水分の出納バランス、体液平衡				
6	：血液－血液の機能、組成、血清と血漿、膠質浸透圧				
7	：全血液量、浸透圧、pH、酸塩基平衡、比重				
8	：血液－細胞成分(赤血球、白血球、血小板)、血液型、リンパ液				
9	生体の恒常性：概日リズム、体温(核温と殻温、体温調節、体熱の異常)				
10	内分泌系：内分泌器官と働き、ホルモンの分泌調節、ホルモンの分類				
11	：内分泌腺とホルモン－視床下部、下垂体、松果体				
12	：内分泌腺とホルモン－甲状腺、上皮小体、副腎、性腺				
13	：内分泌腺とホルモン－腎臓、膵臓、消化管、心臓、胸腺				
14	生殖器系：男性および女性の生殖器と生殖、性ホルモン				
15	個体の発生：受精、妊娠、分娩、胎児付属物、発生(胚葉形成と分化)				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書および参考書を基本に、配付資料も加えて授業を行う。 ・ 配付資料は内容を理解して、授業および自習に活用する。 ・ 講義内容を十分に復習し、理解を深めること。 					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回講義以降、前回までの講義内容に関する小テストを、隔回または不定期で行う。 ・ 定期試験(70%)および小テスト(30%)により総合評価する。 ・ 遅刻や欠席等で小テストを受験しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は追試験を実施する。 ・ 再試験は小テストの内容を合わせて出題し、これを評価する。 					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕					
人体の構造と機能 第5版	内田さえ、佐伯由香、原田玲子	医歯薬出版株式会社			
ぜんぶわかる人体解剖図	坂井建雄、橋本尚詞	成美堂出版			
新編 カラーアトラス組織・細胞学	岩永敏彦、木村俊介、小林純子	医歯薬出版株式会社			
〔参考書〕					
標準臨床検査学 基礎医学 人体の構造と機能	岩谷良則	医学書院			
最新臨床検査学講座 解剖学	秋田恵一、星治	医歯薬出版株式会社			
最新臨床検査学講座 生理学	奈良信雄、和田隆志	医歯薬出版株式会社			